重伝建エリア

歴史と文化の香るエリア

Ⓐ 前原　良太郎【1869年(明治2年)～1932年(昭和7年)明治・大正期の町長、市長】
警視庁勤務を経て、1909年(明治42年)桐生町長、1921年(大正10年)初代桐生市長に就任、市政の発展に尽力した。桐生の近代の夜明けを築いた。他に桐生町議会議員、山田郡会議員、群馬県議会議員に当選した。

Ⓑ 森　宗五郎【1845年(弘化2年)～1924年(大正13年)県議会議員、実業家】
1884年(明治17年)県議会議員当選、また桐生第一物産売買所を創設し、買場の繁栄を祈り稲荷を遷座した。

Ⓒ 森　宗作(二代)【1863年(文久3年)～1932年(昭和7年)明治・大正期の実業家】
1883年(明治16年)森宗五郎の養嗣子となってその家督を継ぎ、1883年(明治22年)桐生町議会議員に当選、織物学校・高等女学校・高等染織学校・中学校の設立、岡公園の建設に尽力、1900年(明治33年)第四十銀行頭取に就任、桐生撚糸合資会社・合資会社桐生製作所・両毛整織(株)・渡良瀬水力発電(株)・足尾鉄道(株)・桐生倶楽部の設立に参画した。

森　宗作(二代)

Ⓓ 森　宗作(三代)【1884年(明治17年)～1955年(昭和30年)大正・昭和期の実業家】
二代宗作の遺業を受けて、群馬県農工銀行・群馬大同銀行・群馬県金融会社の役員、1933年(昭和8年)桐生消防組組頭、1939年(昭和14年)桐生警防団団長に就任したほか帝国飛行協会・桐生市農協・桐生市商工会議所の役員を務めた。

Ⓔ 森　平三郎【1891年(明治24年)～1980年(昭和55年)教育者】
1926年(大正15年)桐生高等工業学校教授、1943年(昭和18年)米沢高等工業学校校長、1945年(昭和20年)工学博士、1953年(昭和28年)山形大学初代学長に就任する。

Ⓕ 羽仁　五郎【1901年(明治34年)～1983年(昭和58年)昭和期の歴史家】
1926年(昭和元年)羽仁吉一の養嗣子となってその家督を継ぎ、1927年(昭和2年)日本大学・自由学園の教授となり、マルクス主義者として活躍した。1947年(昭和22年)参議院議員に当選、国立国会図書館の設立に尽力、1972年(昭和47年)桐生市へ蔵書1万3千冊を寄贈し、羽仁文庫となる。1966年(昭和41年)自伝「私の大学」で「自由都市・桐生」を広く紹介した。

羽仁　五郎

Ⓖ 森　正雄【1906年(明治39年)～1980年(昭和55年)社会実業家】
1933年(昭和8年)有志らと共に医療組合運動を興し、1市10町村にわたって組合員を組織し、翌年2月諏訪町の森氏の所有地を提供し、桐生医療組合病院を開設、組合長に就任した。戦後、市町村に移管したが、1951年(昭和26年)～1980年(昭和55年)まで桐生厚生総合病院医療事務組合議会の学識経験者議員・議長としてその任を全うした。1947年(昭和22年)社会党の市議会議員として一期務めた。ほか地域社会の広い分野での公益活動に尽力した。

Ⓗ 森　喜作【1908年(明治41年)～1977年(昭和52年)起業家、農学博士】
1943年(昭和18年)㈱森農場(後の森産業㈱)を設立し「菌種駒の製造法」の特許を取得する。キノコにささげた生涯をおくる。桐生市名誉市民の称号が贈られる。

Ⓘ コロムビア・ローズ(初代)【1933年(昭和8年)～　昭和期の歌手】
1951年(昭和26年)日本コロムビアの全国歌謡コンクールの県大会で1位となり県代表となる。全国決選大会でも優勝し歌手デビューした。ヒット曲は「どうせひろった恋だもの」「東京のバスガール」など数多い。幼くして桐生市本町一丁目の斎藤家(現関根ギター)の養女に入り、歌手デビューまでを過ごした。北小学校が母校。

コロムビア・ローズ

Ⓙ 相澤　忠洋【1926年(大正15年)～1989年(平成元年)昭和期の考古学者】
戦後桐生市本町一丁目に住み行商のかたわら1946年(昭和21年)から群馬県内縄文早期の遺跡の調査を行い、翌々年笠懸村(現みどり市)岩宿で関東ローム層中から石器を発見した。1949年(昭和24年)に明治大学教授杉原荘介らがここを発掘し、日本に縄文土器以前の石器文化が存在したことを実証した。これ以降、各地で縄文文化以前の石器文化の存在が明らかにされた。旧石器発見の功により吉川英治賞を受賞した。

相澤　忠洋

Ⓚ 長澤仁右衛門(紀卿)(長澤家三代)【1750年(寛延3年)～1800年(寛政12年)】
(江戸中期の漢学者、絹買商人)
事業のかたわら儒学者山本北山に師事して漢学を修業、書を東江源鱗に学ぶ。1788年(天明8年)家督を継ぎ、1789年(寛政元年)出羽国松山藩酒井家御用達を務めた。1791年(寛政3年)下久方村の天満宮境内に私設図書館である潺湲舎を建てる。

Ⓛ 星野　貞暉【1768年(明和5年)～1835年(天保6年)江戸後期の歌人】
国学者橘千蔭、高田与清、清水浜臣に師事して和歌・国文を学び、秀歌を残した。後に近郷の子弟を教えた。吉田清助に影響を与え、桐生国学の祖となった。桐生新町役人を務め、出羽国松山藩酒井家陣屋の普請に寄与する。また、書上文左衛門と些細なことで争論し、役職を辞任した。

Ⓜ 坂口　安吾【1906年(明治39年)～1955年(昭和30年)昭和期の小説家】
1931年(昭和6年)雑誌「青い鳥」を発刊、「風博士」「黒谷村」を発表。文壇に認められ、1946年(昭和21年)「堕落論」「白痴」などを書いて流行作家となった。友人の南川潤の勧めで1952年(昭和27年)桐生市本町二丁目の書上家に来住、「夜長姫と耳男」「桐生通信」「信長」「馬庭念流訪問記」などを書き、この地で亡くなった。

坂口　安吾

Ⓝ 書上三郎左衛門勝郷(書上家三代)【生年不詳～1719年(享保4年)絹買継商人】
1684年(貞享元年)京都の絹問屋に桐生絹を出荷する。また、江戸とも絹取引を始める。1697年(元禄10年)から1719年(享保4年)までの22年間桐生新町の名主を務める。

Ⓞ 書上文左衛門祐介(書上家十一代)【1864年(元治元年)～1914年(大正3年)買継商人】
岡千仞に漢籍、中江兆民にフランス語を学ぶ。1890年(明治23年)書上文左衛門の養嗣子となってその家督を継いだ。伊勢崎・足利・佐野に支店を設置、1892年(明治25年)横浜へ支店をつくり輸出織物直輸業を開始し、1906年(明治39年)に上海に出店した。1898年(明治31年)桐生物産同業組合組長となった。1911年(明治44年)「書上タイムス」を創刊する。また、高等女学校、織物学校、桐生高等染色学校の誘致に尽力した。

書上文左衛門祐介
(書上家十一代)

Ⓟ 書上文左衛門史郎(書上家十二代)
【1891年(明治24年)～1972年(昭和47年)大正・昭和期の織物買継商人】
1914年(大正3年)遺業を受け織物買継商を経営、大戦中の企業整備などの苦境の中で成果をあげ業界に知られた。1921年(大正10年)桐生市議会議員、1931年(昭和6年)群馬県議会議員に当選し地方自治に貢献、書上家伝来の古文書類3千余点を寄贈した。戦後、文芸作家坂口安吾のスポンサーとして面倒をみる。

Ⓠ 野間　清治【1879年(明治12年)～1913年(昭和13年)大正・昭和初期の実業家】
1900年(明治33年)山田第一高等小学校訓導、1902年(明治35年)退任、1904年(明治37年)沖縄中学校教諭となった。1909年(明治42年)大日本雄弁会を起こし、雑誌「雄弁」を創刊、1911年(明治44年)講談社を設立し、「日本の雑誌王」と呼ばれた。北小学校において若き日に教鞭を執った。

野間　清治

Ⓡ 古木　四郎兵衛【生歿年不詳　桐生新町組頭】
1859年(安政6年)、如来道村の津久井儀右衛門と駕籠訴。四郎兵衛は大老井伊掃部頭直弼へ、儀右衛門は老中間部下総守詮勝に単身生糸輸出禁止を訴えるがお咎めなしの裁決となった。

Ⓢ 戸田　邦仁【1890年(明治23年)～1946年(昭和21年)日本初の女性医化学者】
女子医専(現東京女子医大)在学中、開業医資格国家試験に合格したが、同校にとどまり、医化学の分野を専攻する研究者を志し、同校出身者として初めての助教授となる。1929年(昭和4年)ウィーンに留学、帰国後の1932年(昭和7年)同校の教授に就任した。

Ⓣ 矢野　久左衛門(矢野家初代)
【生年不詳～1736年(元文元年)近江商人】
屋号「近江屋」の名で1717年(享保2年)桐生新町二丁目で雑貨、金融業を始める。質素倹約で、家業に精を出して働き「日野の千両店」と呼ばれる。

矢野久左衛門肖像

Ⓤ 岩本　茂兵衛(岩本家三代)【生年不詳～1855年(安政2年)】
3回の渡辺崋山の来桐の世話をする。桐生新町二丁目で絹買商を営む。絹買商人として江戸の田原藩下屋敷に出入りした。渡辺崋山の財政支援者の一人。妻茂登は崋山の妹であった。

Ⓥ 前原　一治【1900年(明治33年)～1968年(昭和43年)昭和期の実業家、市長】
1932年(昭和7年)日本絹撚株式会社へ入社してその経営にあたった。1942年(昭和17年)桐生市議会議員、1947年(昭和22年)桐生市長に当選、新制中学校の建設、風水害による被害、産業文化会館の建設などの難事業を処理して、1963年(昭和38年)辞任した。後に群馬県監査委員を務める。桐生市名誉市民(第一号)の称号が贈られる。

Ⓦ 田村　梶子【1785年(天明5年)～1862年(文久2年)江戸後期の教育家】
享和年中、幕府の祐筆となり、文化年中に帰郷、林兵衛直恒を夫として迎え織物を業とする。そのかたわら1829年(文政12年)下久方村で私塾「松声堂」を開き、習字・和歌・作法を教えた。門下生に島隆、前原照子、望月福子らがいる。

Ⓧ 新居　日薩【1830年(天保元年)～1888年(明治21年)幕末・明治前期の日蓮宗の僧侶】
1848年(嘉永元年)加賀国金沢の立像寺日輝上人の充洽園で学び、東京駒込の蓮久寺へ入り子弟に講義した。1874年(明治7年)身延山久遠寺の住職となり、一致派管長に推され、日蓮宗の宗名を定めた。孤児養育の福田会育児院の設立に尽力した。1880年(明治13年)山田郡下久方村へ寂光院を移転させた。